



生き生きとした自分を見つめるための実用生活誌

はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2021 Summer NO.56

ダイジェスト版

〈治癒のヒント〉

わずら

長患いで
良医になれる

特集

いつでも健康相談ができる——

珠光会が

「ホームドクターサービス」を開始



特集

いつでも健康相談ができる

珠光会が「ホームドクターサービス」を開始



“ホームドクター”とは、“かかりつけ医”や“家庭医”のこと。頭痛がする、熱がある、腰が痛い……診療科はどうあれ、体の不調を覚えたとき、最初に頼る医師（医療機関）です。今年度、珠光会はハスミワクチンを使っていたいただいている患者さんのみならず、そのご家族などを対象とした“ホームドクターサービス”を開始することとなりました。今回の特集は、そのサービス内容などについて、米国法人蓮見国際研究財団理事長の蓮見賢一郎先生、BSL-48 International Clinic 事務長の渋谷大介氏、同看護師長の松島夏梅さんのお話をもとに解説します。

離れつつも緊密なやり取りが可能

人体の構造は精緻の極み……。だからこそ、いったん恒常性が崩れた場合、不調は多岐にわたって生じます。その証拠に日本の診療科は内科だけで消化器科・呼吸器科など約13科、外科は消化器外科・乳腺外科など約6科、内科・外科以外では整形外科、皮膚科など約15科が標榜されています。こうした多種多様に分岐する医療の入り口として、最初に患者さんを診察するのが「ホームドクター」です。ホームドクターは一次医療（プライマリケア）の担い手として、病気や外傷などの治療のみならず、疾病予防や健康管理など、患者さんが健やかに暮らすための幅広い医療を実施しています（図1）。「がんは、全人的な病気」といわれるように、患者さんは治療に関連する事柄以外にも、さまざまな問題に悩まされています。だからこそ、がんの患者さんには、一層きめ細かなプライマリケアが必要であるという思いが、「ホームドクターサービス」を始めるきっかけのひとつでした（蓮見先生）。「日本における免疫療法の黎明期、ハスミワクチン」が、がんワクチンの先駆けとして初

※1 恒常性：生体内部や外部の環境にかかわらず、体内環境（内部環境）を一定に保とうとする性質、あるいはその状態のこと。ホメオスタシス(homeostasis)という
※2 最近では診療科の枠を超えた統合が進み「循環器センター」や「生殖医療センター」等、臓器別や疾患別の診療区分が一般的となってきた
※3 一次医療（プライマリケア）：単なる医学的対応だけでなく、「ケア」を含めた幅広い対応を示すもの。ひとつの分野に限定されない総合的な医療を指す



夏の“寒さ”を乗り切る

蓮見賢一郎 医療法人社団 珠光会 理事長

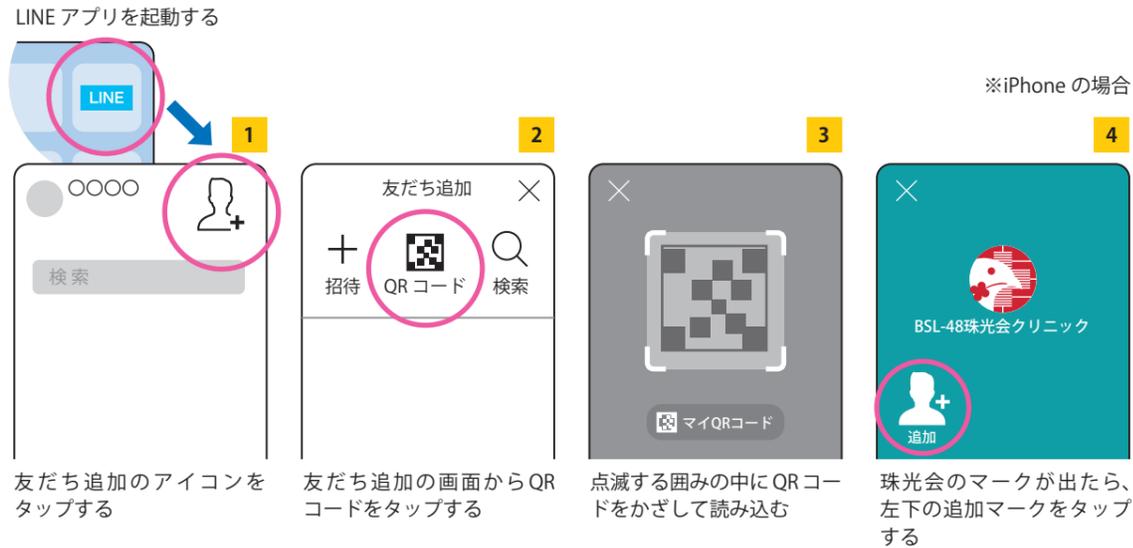
かつて夏といえば「暑さ」だけに注意していればよかったです。一つの頃から冷房による「寒さ」にも用心しなければならなくなりました。夏は暑さと寒さに同時に対応しなければならぬ、きわめて過酷な季節だといえるでしょう。長い間冷房の効いた部屋に居ると、いつの間にか体調が乱れていることがあります。いわゆる「冷房病」です。文明が生んだこの人工季節病は、次のようなメカニズムで生じます。人間の脳内には、体温を一定に保つための神経システムが備わっています。体温の基準となる温度を決め、それ以下になると熱を作り出して（産熱）体を温め、それ以上になると汗をかくなどして熱を放出し（放熱）、体を冷やします。この体温調節を行っているのが自律神経です。自律神経とは内臓や血液の働き、代謝などをコントロールする神経のこと。目覚めているとき・緊張しているときに活発になる「交感神経」と、寝ているとき・リラックスしているときに活発になる「副交感神経」からなり、二つの神経のコンビネーションによって体内環境を一定に保っているわけです。ところが、冷房の効いた室内からうだるような暑さの屋外へ……というように、温度差の

ある場所を一日に何度も行き来していると、自律神経への負担が大きくなり、体調に異変が生じるようになってきます。これが冷房病です。冷房病に陥ると、体温調節機能の低下から免疫力や代謝機能が減退。血流も悪くなります。結果、肩こり、頭痛、だるさ、疲れやすさ、手足の冷え、食欲の低下など、さまざまな症状が現れるわけです。冷房病対策で、まず心がけねばならないのは、長時間冷房に当たらないこと。職場などやむをえない場合は、カーディガンや上着、靴下などの衣類、ひざ掛けなどで調節しましょう。直接冷風を浴びない工夫も大切です。冷たい飲み物は体を内側から冷やしてしまうので、できるだけ温かいものを飲むようにしましょう。また、猛暑が続くと食欲が落ちたり、消化機能が低下しやすくなったりします。消化がよくバランスの取れた食生活を心がけましょう。少しでも健康に不安を覚えたら、今回特集でご紹介する「ホームドクターサービス」にご連絡ください。私とBSL-48 International Clinicの植田候平院長が、みなさまの健康上のお悩みにお答えします。地球温暖化の影響か、日本の夏は年々厳しさを増している気がします。こまめな冷房病対策で、この夏を元気に乗り越えましょう。

CONTENTS

- 2 思いの言の葉 Vol.50 夏の“寒さ”を乗り切る
- 3 特集 いつでも健康相談ができる—— 珠光会が「ホームドクターサービス」を開始
- 7 連載コミック 第51回 ほのぼのJiJi・BaBa 松 & 梅
- 8 「ICVS Tokyo Clinic V2 特別企画」悩ましい“痛み”を速やかに解消する—— 「培養上清療法」
- 11 かんたん家庭料理 いんげん、枝豆、そら豆、豆腐のハーブマリネ
- 12 治癒のトピ 長患いで良医になれる — 中国編 —
- 14 最新の実験結果からひも解く 病気になりにくい体づくり—— 「アジュバント療法」の活用法
- 16 「HITV女子会」の近況をご紹介します

図2 「LINE」からホームドクターサービスへアクセスする方法



米国法人蓮見国際研究財団理事長
蓮見 賢一郎先生

めて臨床に用いられたのは1948年です。約73年間の総患者数はおよそ15万人。今でも日本全国のみならず、世界中にたくさんの患者さんがいらつしやいます。

こうした患者さんのお悩みにどう向き合っていくのかは、珠光会の長年の課題でした。しかし、近年はインターネットやSNSが一般化しましたので、離れていてもある程度緊密なやり取りができるようになりました」(渋谷事務長)

スマートフォンやパソコンなどの端末があれば、特定・不特定にかかわらず多くの人と、コミュニケーションを取ることが可能です。「SNSを中心に、ハスミワクチンの患者さんのもとよりご家族、ご親戚、ご友人などの病状相談、健康相談に応えていきたいと考えています」(蓮見先生)

スマートフォン1台あれば「LINE」も、「LINE」があれば

SNSには、「Twitter (ツイッター)」「Instagram (インスタグラム)」「LINE (ライン)」「Facebook (フェイスブック)」「YouTube (ユーチューブ)」など多数の種類があります。珠光会が「ホームドクターサービス」で用いるのは主にLINE (ライン) です。LINE (ライン) は「Twitter (ツイッター)」などのように不特定多数の人に公開されるのではなく、特定の人にのみ利用できるなどの特長があります。では、どのようにすればホームドクターサービスを受けることができるのでしょうか。

「ホームドクターサービスのQRコードが*4あります(6頁)。このQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、珠光会のLINEアカウントが表示されます(図2)」(渋谷事務長)

QRコードとは、以前より用いられているバーコードの発展形。「https://」から始まるURLを、1文字ずつ手入力する手間をかけることなく、目的のサイトにアクセスすることができます。

「ホームドクターサービス用のLINEで病気についてのお悩みや、健康上の不安など、珠

光会に相談したいことを、お気軽に送ってください」(松島看護師長)

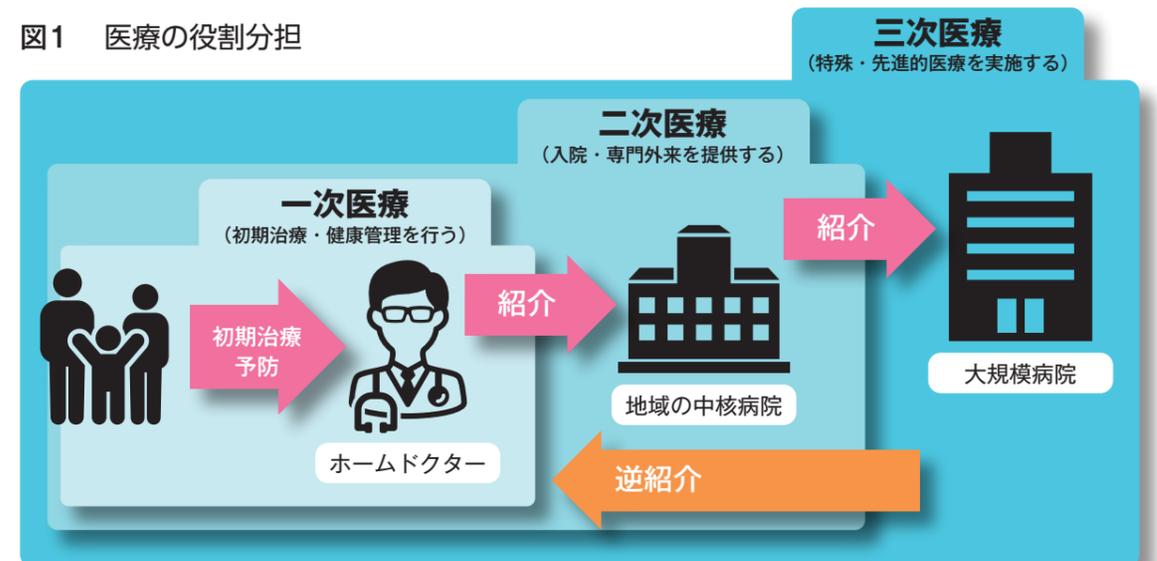
「現在、相談の回答は私とBSL-48 International Clinicの植田候平院長で行っています。お返事は即時お送りするよう努めています。緊急の治療など、やむを得ない事情により若干遅滞してしまう場合もあります。必ず(お返事を)お送りしますので、お待ちくださいますようお願いいたします」(蓮見先生)

スマートフォン1台あれば、いつでもどこからでも珠光会の医療と接続できるホームドクターサービス。料金はどのようなのでしょうか。

「もちろん、無料です。このサービスの位置づけは、あくまでも患者さんのフォローです。ただし、対面の診療が必要になるなど、カルテを起こさねばならない場合は、通常の診察費が発生します」(渋谷事務長)

「たとえば腰が痛いとか、耳が聞こえづらくなったとか、珠光会の専門領域以外の診療科を受診した方がよい場合は、ご希望の地区の専門医・施設情報を無料でご提供します。なお、珠光会の診療情報提供書が必要な場合は、一度受診していただかねばなりませんので、先ほどと同じく診察料が生じます。ご了承ください」(松島看護師長)

図1 医療の役割分担



*4 QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

ホームドクターとして健康をサポート



先に述べたように、ハスミワクチンの患者さんは世界中にいらつしやいます。日本国内の患者さんに比べ、一層来院しづらい海外の患者さんにとって、ホームドクターサービスは心強い味方になるに違いありません。海外のみなさんは、サービスをどのように利用しているのでしょうか。

「ハスミワクチンの患者さんが特に多いのは中国、台湾、ベトナムなどの東南アジア。そして、オーストラリア、ブラジル、ウルグアイなどです。日本の場合は電話での相談がほとんどですが、海外の患者さんはLINE (ライン) か WeChat (ウィーチャット) のビデオ



BSL-48 International Clinic 事務長
渋谷 大介氏



小林 裕美子

マンガ家/イラストレーター
東京造形大学・デザイン学科卒業。イラストレーターとして、実用書や児童書、雑誌、WEB媒体、新聞等に挿絵やマンガを描いている。『美大デビュー』（ポプラ社）、『もち・ぼち』（徳間書店）、『親を、どうする?』（実業之日本社）、『私、産めるのかな?』（河出書房新社）、『親が倒れた! 桜井さんの場合』（新潮社）、『産まなくてもいいですか?』（幻冬舎）等、著書多数。

怖いもの



本番?



BSL-48 International Clinic 看護師長
松島 夏梅さん

才通話システムを使う場合が多いですね」(松島看護師長) LINE (ライン) や WeChat (ウィーチャット) のビデオ通話とは、映像付きの無料電話のこと。お互いの顔を見ながら会話できるので、医師と会うことが難しい海外の方にとっては、安心感につながるのかもしれない。「現在、SNSをはじめとする情報通信技術は目覚ましい発展を遂げています。これらの技術を活用することで、どんなに離れていても珠光会の医療を身近なものにすることが可能です。

体の不調、日常生活の過ごし方...疑問に思ったら、どんなことでも相談してください。珠光会はホームドクターとして、みなさまの健康をサポートします」(蓮見先生)

70年を超える歴史によって培われた免疫療法の知識が蓄積されたアドバイスは、病状改善や不調解消に留まらず、高い免疫力に裏打ちされた健康な毎日を約束してくれるに違いありません。珠光会のホームドクターサービスを、ぜひご利用ください。

■ ホームドクターサービスをご利用されたい方は、右のQRコードを読み込んでください。



BSL-48 珠光会 Clinic
LINE アカウント

■ 電話・ファックス・メールでのご相談も受け付けます。ご希望の方は、以下までご連絡ください。

BSL-48 珠光会 Clinic

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 1-44-6
電話：03-3338-0710
FAX：03-3338-0720
メールアドレス：bsl@shukokai.org

BSL-48 International Clinic

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1
ニューオータニガーデンコート 1F
電話：03-3239-8101
FAX：03-6685-7749
メールアドレス：international@shukokai.org

Special Information

がんの“痛み”“不快感”でお悩みの方——
“培養上清液療法”のモニターを募集します

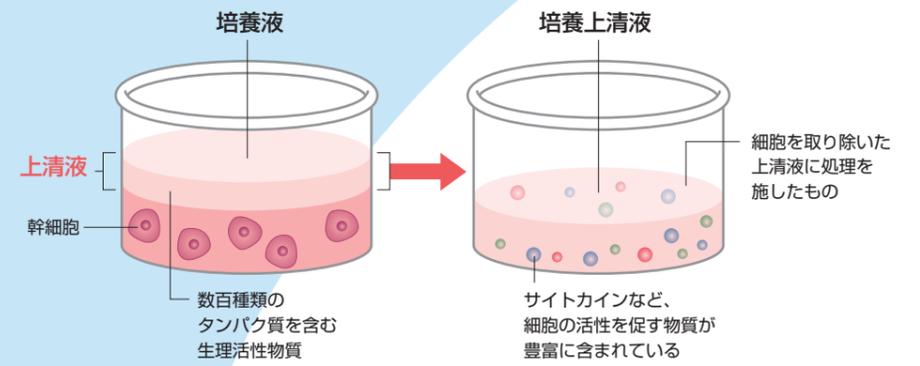
本誌8頁でご紹介している通り、「培養上清液療法」は疼痛などを速やかに解消する効果があります。この「培養上清液療法」のモニターを、抗がん剤治療の下肢のしびれなどでお悩みで、現在病状が安定している方を対象に募集します。初回無料。人数は限定10名。定員に達し次第、締め切ります。培養上清液療法の適応・不適応については、植田院長が診断します。ご希望の方は下記まで、電話かファックスでお申し込みください。

※ 病状が安定している方だけの募集です。不安定の方は「培養上清液療法」には不適応となりますのでご了承ください。

《お申し込み先》

BSL-48 International Clinic TEL：03-3239-8101 FAX：03-6685-7749

図1 培養上清液とは



ICVS Tokyo Clinic V2
特別企画

悩ましい“痛み”を速やかに解消する—— 「培養上清液療法」

ICVS 東京クリニックの姉妹病院である「ICVS Tokyo Clinic V2」は、再生医療のひとつである“幹細胞治療^{※1}”専門のクリニックです。幹細胞治療にはさまざまなバリエーションがあり、「培養上清液療法」もそのひとつ——。痛みを速やかに解消する治療法として、近年スポットライトを浴びています。今回は特別企画として、新しく ICVS Tokyo Clinic V2 に着任した菅原悠先生、そして、米国法人蓮見国際研究財団理事長の蓮見賢一郎先生のお話をもとに、培養上清液療法の治療力について解説します。

※1 幹細胞治療：再生医療の一種。分裂によって自分と同じ細胞をつくる“自己複製能”や、さまざまな細胞に分化する“多分化能”を持つ「幹細胞」を用いて体内の修復・再生活動を行う
 ※2 変形性膝関節症：体重の増加や加齢などが原因で膝の軟骨がすり減ってしまい、膝に強い痛みが生じる病気
 ※3 間葉系幹細胞：成体の間葉組織（骨髄や脂肪組織などの結合組織の一部）に含まれる幹細胞。骨細胞・軟骨細胞・脂肪細胞・神経細胞・肝細胞など、さまざまな細胞に分化できる

薬と手術の間、で悩む患者さんを救う

日本で慢性的な痛みを抱えている人は成人の22・5%、おおよそ2315万人にも上るといわれています。そのうちの7割の人が「適切に疼痛が緩和されていない」と考えているのです

図2 「培養上清液療法」の2つの方法



通常は患部へ直接注射。
痛みの箇所が多いなどの場合は点滴を用いる

から、痛みの問題がいかに根深いか想像に難くないでしょう（「痛み」に関する大規模調査「ムンディファーマ株式会社 2010年」）。

「例えば、変形性膝関節症^{※2}の場合、ステージが1から4まであり、1から2のステージだとヒアルロン酸などの一般的な薬物療法が効果を発揮して、痛みを和らげてくれます。しかし、ステージが3や4へ進行してしまうと、既存の薬物療法はほとんど功を奏しません。

にもかかわらず、手術などもう一歩踏み込んだ治療法を選択する踏み切りがつかず、効果の見込めぬ治療をなんとなく続けている患者さんが、日本にはたくさんいらっしゃいます。

私はこうした患者さん、つまり、薬物療法と手術の間で痛みに苦しめられている患者さんに有効な治療法はないものかと、長年探していました。そして、出会ったのが「培養上清液療法^{※3}」だったのです（菅原先生）。

幹細胞治療に用いられる間葉系幹細胞を培養する際、幹細胞は培養液内に、数百種類のタンパク質を含んだ生理活性物質を分泌します。

この培養液から細胞を取り除いた上清液に、滅菌などの各種処理を施したものが培養上清液です（図1）。

培養上清液には、サイトカイン^{※4}や成長因子^{※5}など、細胞の活性を促す物質が豊富に含まれており、何らかの原因で障害された組織や細胞の回復に、大きな役割を果たしているといわ

れています。

培養上清液を患部へ注射したり、点滴で全身に巡らせたりして疼痛の原因を修復し、痛みの解消を目指す治療——それが「培養上清液療法」です。

ほとんどの人が「即効性」を実感

培養上清液療法の利点は、大きく2つ——。1つは体への負担が少ないこと。もう1つは、即効性があるということです。

「私は、腰痛持ち^{※6}で、痛みに苦しめられることも多々ありました。その鬱陶しい痛みが培養上清液を注射すると、5分後ぐらいには解消してしまっただけです。

もちろん、個人差はありますが、患者さんに話を聞いてみると、「培養上清液を」注入直後から効果を感じたという人がたくさんいらっしゃいました（菅原先生）。

「以前本誌でもお話ししましたが、右の腓腹筋（ふくらはぎ）を断裂してしまっただけで、培養上清液を大腿動脈から入れてみました。すると、10分後ぐらいには、普通に歩けるまでに回復したのです。

腰痛に悩まされていた私の親戚も、培養上清液を入れた直後から「痛みが和らぐ」ことを実感したそうです（蓮見先生）。

「私もスポーツ選手の怪我とか、それこそ慢性

腰痛とかいろいろなケースで培養上清液療法を用いましたが、一様に確かな結果を得ることができました。これは「本当に使える」療法なのだ、という実感を持っています（菅原先生）。

長年続く疼痛に悩まされ続けている人、怪我などで、突発的に生じた痛みで苦しんでいる人……。多くの人にとって、施術直後に痛みから解放される治療法があるということは、大きな福音に違いありません。

とはいえ、培養上清液療法の薬効は、どれぐらいの期間持続するのでしょうか。

「効果持続時間に関しては、まだ正確なデータが得られていないのが現状です。1回注射するだけで事足りる人もいれば、疼痛が消えるまで複数回の投与が必要となる人もいます。

ただ、総じていえることは、薬効が切れても、もとの痛みに戻ってしまう人は少ないということです。痛みの波が弱くなり、「痛み（の間隔が広がっていくケースがほとんどです）」（菅原先生）。

培養上清液の注入には注射と点滴——2つの方法があります（図2）。

通常は膝や腿など痛みのある部位へ直接注射しますが、痛みの箇所が多い場合や神経痛の場合などは点滴を用います。点滴は培養上清液を全身に巡らせるので、高い効果が広範囲にわたって持続します。

「注射より点滴の方が注入量を増やせるので、効果は一段と向上します。その分費用が高く

※4 サイトカイン：細胞から分泌されるタンパク質。細胞間相互作用に関与する生理活性物質の総称
 ※5 成長因子：動物の体内で、特定の細胞の増殖や分化を促進するタンパク質の総称

美味しく
食べて
健康長寿

かんたん家庭料理

食べて“健康長寿”を目指すお手軽レシピをご紹介します。



いんげん、枝豆、そら豆、豆腐のハーブマリネ

未熟な豆類にはカロテンやビタミンCが豊富に含まれています。また食物繊維も多いので大腸の環境を改善します。マリネにトマトを加えたり、茹でたパスタと混ぜても美味しくいただけます。

材料
(2人分)

- いんげん.....80g
- 枝豆.....20さや
- そら豆.....5本(豆をさやから出しておく)
- 木綿豆腐.....1/3丁
- バジルの葉.....8枚
- にんにく(みじん切り).....小さじ1
- 塩.....小さじ1/2
- オリーブ油.....大さじ2
- レモン汁.....大さじ1

作り方

- 1 お湯をたっぷり沸かし、いんげん、枝豆、そら豆を色よく茹でる。茹であがったら、いんげんは冷水にとり、あとはざるに広げ冷まして皮をむく。いんげんは2cm長さに切る。
- 2 バジルを刻んでボウルに入れ、にんにく、塩、オリーブ油を加えてよく混ぜ合わせる。さらに1を加えてよく混ぜる。豆腐はサッと熱湯を通して1cm角に切り、ペーパータオルにのせて水気を切り、加えてよく混ぜる。
- 3 2を器に盛り、いただく直前にレモン汁をかける。

料理制作・植木 もも子 管理栄養士、国際中醫師、国際中薬膳管理師。
料理ジャーナリスト・岸朝子氏に師事し、料理記者、フードスタイリストを経て、食関係の多彩な仕事に従事。講演や料理教室、著書などを通して、毎日の食事の大切さを伝えながら「美味しく、楽しく、賢く、健康に」をモットーに健やか料理研究家として活動中。

なってしまうのが、ICVS Tokyo Clinic V2は自前の培養設備があることで、「コストをギリギリまで抑えることができるのです。私の知る限り、ICVS Tokyo Clinic V2は非常にクオリティの高い培養上清液を、とても安価で提供していると思います」(菅原先生)

世界基準の培地がもたらす高品質

ICVS Tokyo Clinic V2に付設された細胞培養加工施設 (Cell Processing Facility : CPF) は、国際的なGMP基準に沿った高機能設備です。こうした設備が医療施設と一体になっているのは珍しく、だからこそ、高品質な細胞が安全・安価に供給できるわけです。

インターネットで「培養上清液療法」と入力すれば、実施している医療施設が山ほど出てくるでしょう。しかし、ICVS Tokyo Clinic V2は高品質の高い上清液を提供している施設は少ないと、菅原先生は語ります。その理由はズバリ、「培地」にあります。

培地とは「微生物や細胞の培養のために用いる、養分などを含む液状や固形の物質」のこと。培養上清液の元となる間葉系幹細胞も、この培地によって培養されます。

畑作や野菜の栽培をイメージしていただければわかりやすいでしょう。養分が少ない土地にまいた種が肥沃な土に育たぬように、粗雑な

培地からでは高品質な上清液は生まれません。ICVS Tokyo Clinic V2で用いられている培地は、実は世界的に見ても高い水準にあるのです。ICVS Tokyo Clinic V2で用いられている



米国法人蓮見国際研究財団 蓮見賢一郎理事長(左)
ICVS Tokyo Clinic V2 菅原悠先生

のは、「アニマル・オリジンフリー」という動物由来の成分を一切含まない培地です。従来の培地には、ウシ胎児血清など動物由来成分が用いられており、その分不純物が含まれることも

多い——。安全性という面から疑問を呈する培地も少なくないのです。

アニマル・オリジンフリーの培地から作られた培養上清液は、世界的にも珍しいのではないのでしょうか。この品質なら一時に多量に注入しても安心ですので、強い痛みが広範囲にわたって続いているようなケースでも、安心して対応できます」(菅原先生)

「最先端分野ですので、それが本場に安全な治療なのかどうかを幾重にも担保しなければなりません。アニマル・オリジンフリーの培地は、できることはすべてやろうという姿勢が行きつく当然の結果でしょう」(蓮見先生)

アニマル・オリジンフリーの培地は、当然通常の培地よりコストがかかります。しかし、先ほど述べた自前の細胞培養加工施設をはじめとする、さまざま工夫で、患者さんへ負担をおかけすることなく、スムーズな治療を実現しているのです。

「再生医療は多くの可能性を秘めた分野です。菅原先生のご協力のもと、これから明らかになるであろうさまざまな事象を論文化し、世界へ発信していきたいと考えています」(蓮見先生) 体に負担をかけることなく、「痛み」が速攻で解消する——。培養上清液療法は治療に留まらず、QOL(生活の質)全体を改善するポテンシャルを秘めている」といっても過言ではありません。



Illustration: はるうらら

始めて半年ほど経った頃にはすべての病巣が消失したのです。昨年、頸部のリンパ節に再発が認められましたが、早い段階で発見されたこともあり、免疫療法だけで順調に病巣を消すことができました。

現在、新しい病巣は発現せず、データも正常値。体調も良いですよ。ICVS東京クリニックにはとても感謝しています」（黄さん）

2019年12月より始まったコロナ禍は、世界中の医療に多大な影響を及ぼしました。黄さんも日本への入国が叶わず不安な日々

を送っていました。幸いにも2020年12月に医療ビザがおりて来日を果たし、ICVS東京クリニックの検査を受けることができました。

「中国には、長患いで良医になれる」という考え方がありません。長く病気を患っていると、自然とその病気についての知識が身に付くという意味です。私も免疫療法についてはずいぶん勉強しました。結果、免疫療法は近い将来、がん治療の主要な治療方法のひとつになるという確信に至りました。

ICVS東京クリニックのような医療機関がもっと増えてくれれば、世界中のがん患者さんの悩みを解決することができるのではないのでしょうか」（黄さん）

良医となった黄さんが自らの体験を多くの人に伝え、がんてくれることを願ってやみません。

治癒のポイント 進行がんには“内側”の治療が大切

第IV期や術後の再発など、進行がんと呼ばれる病態が、放射線や抗がん剤治療などの標準治療だけでは治らないことは、一般的な事実として明らかになっています。この主な原因のひとつに、がん細胞がすでに血液中に侵入していることがあげられます。

黄さんの場合、食道がんの細胞のタイプが未分化型。放射線治療や抗がん剤治療がよく効く反面、細胞の増殖が早く、再発率が極めて高いのが特徴です。そのため、たとえIII期であっても治癒は難しいといわれています。事実、黄さんの場合も、HITVと放射線治療により、すべての病巣が完全に消失したにもかかわらず、2年半後に左の鎖骨上リンパ節に再発を認めました。

しかし、再発したがんは、免疫の力だけで消失させることができました。免疫療法の最大の役割は、一度治ったがんの再発をさせないことにあります。そして、万一再発しても、副作用のある一般治療を繰り返すことなく、免疫療法だけでコントロールできるので、理想的な治療ともいえます。これらの経験からいえることは、進行がんの治療は、外からの一般治療だけではなく、内からの治療、つまり免疫療法をどのように組み立てるかが大切だということです。

米国法人 蓮見国際研究財団理事長 蓮見 賢一郎

治癒のヒント

— 中国編 —

わずら 長患いで 良医になれる

今回のゲスト **黄明明**さん 63歳 (中国・浙江省)

珠光会にはがんと闘うためのさまざまなノウハウが蓄積されています。それらの治療法によって“腫瘍を消失させてがんサバイバルから生還した人”、“治癒までは達していないものの進行を抑えて日常生活を支障なく過ごしている人”取材し、各人の体験に秘められた“治癒へ至るヒント”を浮き彫りにする本シリーズ——。今回のゲストは、中国の浙江省からICVS東京クリニックを受診し、次世代型免疫療法——HITV療法※1によってがんを克服した黄明明さん（63歳）のエピソードをご紹介します。

電光石火の決断

黄さんが第III期の「小細胞食道がん」と診断されたのは約4年前——2017年の6月20日のことでした。医師から「がん」の宣告を受けるだけでもショックなのに、「病気の進行が速い」と告げられて、崖から突き落とされたような気分だったといいます。

「国内では手術・放射線・抗がん剤という基本的な治療しか受けられず、しかも、私の場合はそれらの効果があまり期待できない……といわれたのです。本当に打ちのめされる思いでした」（黄さん）

治療するすべがないという絶望感を抱え、悶々と日々をやり過ごしていた黄さん。しかし、転機はすぐに訪れてくれました。黄さんの友人が「肝臓がんに罹患して厳しい病状だった息子の友人の高さんという人が、日本のHITV療法」と教えてくれたのです。

「まさに天啓でした——。もしかしたら治るかもしれない」という予感が、目前の霧を晴らしてくれました。高さんが受診したHITV療法は、東京のICVS東京クリニックという病院で実施している」と、友人が教えてくれました。すぐに連絡先を聞き、コンタクトを取りました。そして、「一縷の望みに心を躍らせながら、日本へ向けて旅立つ

たのです」（黄さん）

がん宣告から1か月後——まさに、電光石火の決断でした。

新しい病巣も発現せず

黄さんはICVS東京クリニックで、HITV療法の生みの親である蓮見賢一郎先生から告げられたひと言が忘れられないと語ります。

「日本の検査結果と母国から持参した治療データを見比べていた蓮見先生は、顔を上げるところ告げたのです。黄さんの場合、HITV療法の効果を期待できそうです。体の力が抜けてしまうほどホッとしました。そして、ICVS東京クリニックで治療を続けようとしたのです」（黄さん）

HITV療法の特長は、高品質の樹状細胞を直接がん腫瘍に投与すること。そうすることで、免疫システムの総司令官といべき樹状細胞に、「攻撃対象」となるがん細胞の情報を実戦的に学習させることができます。研ぎ澄まされた樹状細胞は、異物に対しての攻撃を担う免疫細胞——CTL（キラーT細胞）を的確に誘導し、がん細胞に壊滅的な打撃を与えるのです。

「HITV療法の効果は、幸運なことと思っただけでなく、早稲刈りされました。治療を開

※1 HITV療法：ステージIVのがんを治療することを目的に開発された次世代型免疫療法。ICVS東京クリニック（東京・紀尾井町 TEL：03-3222-0551）で実施されている

最新の実験結果からひも解く

病気になりにくい体づくり—— 「アジュバント療法」の活用法

コロナ禍が浮き彫りにした教訓のひとつが“日頃から病気になりにくい体内環境を整備しておくこと”。現場の逼迫により、医療を受けたくとも受けられない患者さんが続出したニュースは、誰もが耳にした記憶があるでしょう。自分の健康は自分で守らねばならない時代、ハスミワクチンで用いられる「アジュバント」を用いて免疫機能を向上させる「アジュバント療法」が注目されています。このアジュバント療法について、米国法人蓮見国際研究財団・東京リサーチセンター研究開発室の平野啓氏にお話しをお伺いしました。

ハスミワクチンを支えた 「アジュバント」

「アジュバント」とは耳慣れない言葉ですが、どういう物質なのでしょう？ そのあたりから教えてください。

平野研究員「アジュバントとは、薬物の効果を高める「補助剤」の総称です。ラテン語の「diuvare（助ける）」に由来します。免疫治療の分野では、免疫応答を増強させる「免疫賦活剤」として用いられ、抗原の効き目を長持ちさせたり、免疫系の細胞群を活性化させたりする効果が見込まれています」

「どんなアジュバント、つまり「補助剤」を使うかによって、「主剤」の効き方も変わってくるということですね。「アジュバント療法」に用いられるのは、ハスミワクチンのアジュバントですね？」

平野研究員「はい。ご存知の通り、ハスミワクチンは故蓮見喜一郎博士によって開発され、1948年より臨床に用いられた日本の「がんワクチン」の草分け的な薬剤です。ウシ脾臓由来脂質を主成分としたとても効果の高いアジュバントでしたが、より安定した品質を目指して合成化の研究が進められました。そして、生理活性物質の特定、免疫活性試験などを経て、2015年5月

から合成タイプのアジュバントが用いられるようになったのです。ただし、従来のタイプをご希望の患者さまには、引き続き同タイプのアジュバントを用いたワクチンをご利用いただいています」

「がんを移植したモデルマウスによる研究から、現在明らかになりつつある合成アジュバントの機能は、樹状細胞の機能を亢進させる作用です。」

樹状細胞の 機能を亢進させる

「合成型アジュバントに関して、最新の実験結果を教えてください。」

平野研究員「がんを移植したモデルマウスによる研究から、現在明らかになりつつある合成アジュバントの機能は、樹状細胞の機能を亢進させる作用です。」

樹状細胞は「免疫系の司令塔」と称される通り、がん細胞などの「異物」の情報を攻撃担当の免疫細胞へ伝えるなど、免疫系の細胞群に対してさまざまな支援を行います。こうした樹状細胞の働きを、合成アジュバントが促進することが分かっています（図1）。

モデルマウスに合成アジュバントを投与すると、移植したがんの増悪を抑えられることが観察されているのですが、樹状細胞への働きかけの結果ではないかと考えています」

樹状細胞の機能亢進は、免疫システム全体

の活性化につながる可能性があるわけですから、「病気になりにくい体づくり」という観点からも有意義ですね。

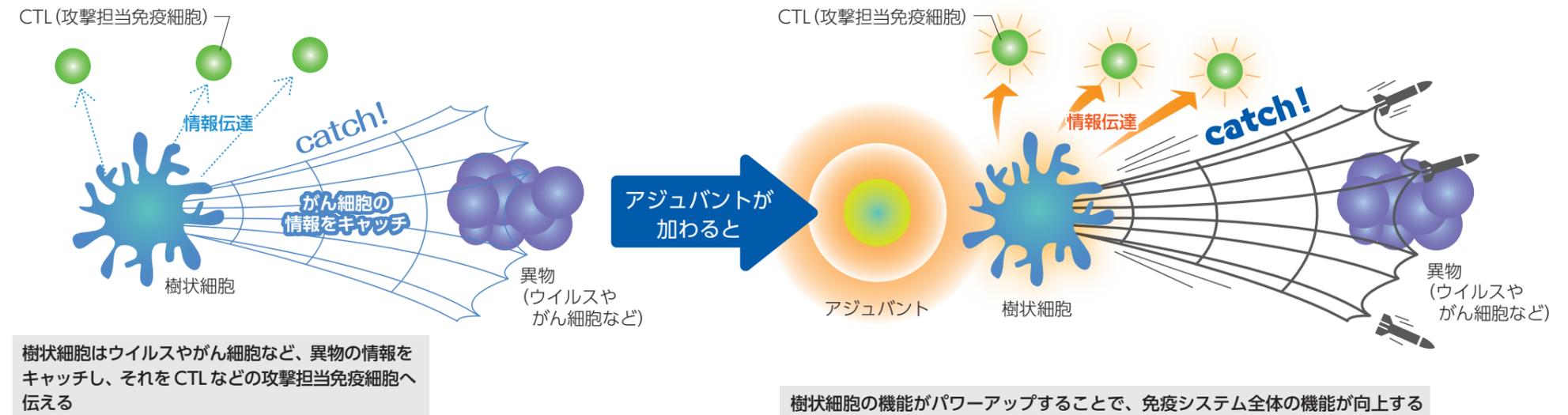
アジュバント療法は、具体的にどのような方法で行うのでしょうか？ 平野さんは研究者です。お尋ねするのは筋違いな気がします。

平野研究員「BSL-48 International Clinicの渋谷事務長の言ですが、アジュバント療法には「皮下注射」と「貼付剤」という、二種類の方法があります。予防目的で用いる場合はともに7日ごとの投与。また、関節性リウマチ・アトピー性皮膚炎・喘息などの「自己免疫疾患」の症状緩和目的で使用されることも多いのですが、その場合は基本的に5日ごとの投与となります」

「貼付剤があるなら、注射が苦手な人はもちろん、体を動かさずらい状態の人にも使えるので便利です。それでは、最後に読者へメッセージをお願いします。」

平野研究員「免疫機能の維持・向上は、感染症やがんの予防はもちろん、日常的な健康管理のためにも非常に重要だと思います。よく言われるように、睡眠や食事、適度な運動が大事だと思いますが、それでもバランスを崩しがちな場合などは、アジュバントの効果が期待できるかもしれません」

図1 樹状細胞の働きを
パワーアップさせるアジュバント



樹状細胞はウイルスやがん細胞など、異物の情報をキャッチし、それをCTLなどの攻撃担当免疫細胞へ伝える

樹状細胞の機能がパワーアップすることで、免疫システム全体の機能が向上する

アジュバント療法のバリエーション

アジュバント療法は、注射以外にも次のような方法があります。



●M-Adjuvant (エム・アジュバント)
パッチ型のアジュバント。皮膚に貼るだけなので、仕事中でも寝たままで効果を得られる



●点鼻薬スプレー
アジュバントを主成分とした点鼻薬。花粉症にも効果を発揮



●CHORDA (コルダ)
ハスミワクチンをベースに開発された経口用アジュバント。注射が苦手な人も安心

「HITV女子会」の近況をご紹介します

前号でお知らせした通り、「HITV女子会」はSNSなどを利用し、患者様同士が「お互いの心を支え合う」ための“場”となることを目的に活動しています。「HITV女子会」の近況をご紹介します。



“お茶会”風景。食事と写真撮影時以外は、全員マスク着用。きちんとした感染症対策のもとで実施しています。

● “お茶会” を開催

新型コロナウイルス感染症が生んだ弊害のひとつが人的交流の抑制です。もちろん、感染症対策としては不可欠ではありますが、そのために孤独を余儀なくされ、メンタルヘルスの観点から見ればネガティブな生活を送っている人も少なくないでしょう。ましてや“がん”という問題を抱えていれば、なおのこと日々の鬱憤^{うっぷん}が溜まりやすいもの——。そんな悪状況を“前向き”にしたいという思いから、緊急事

態宣言が明けた4月6日（火）、東京・赤坂で「HITV女子会」

主催の第1回“お茶会”が開催されました。自らの治療体験や病気との向き合い方などについて、日頃思っていること、実践していることなどを屈託なく話し合いました。

● コミュニティサイトがオープン。HITV療法で回復した患者様の動画も見られます

患者様同士の交流の場として、コミュニティサイト「免疫Happytalk」がスタートしました。サイト内では、HITV療法によって末期がんから生還した元患者様のプロフィールを動画でご覧いただけます。

『私が受けたHITV療法 case001』と題する動画の主人公は遠藤純さん（仮名）。12年前に肺がんと脳への転移が発見され、第4期の診断がくだされました。抗がん剤治療をひどい副作用のために中断。途方に暮れているときに会ったのがHITV療法でした。

HITV療法を受診した遠藤さんがどのように回復していったか、動画では臨場感たっぷりに描かれています。興味のある方は、ぜひご覧ください。

※「免疫Happytalk」へは、右のQRコードからお進みください。



【QRコードの読み取り方】

- ① スマートフォンのカメラを起動し、右記のコードにかざします。
- ② 画面上部にリンクがでてくるので、そこをタップ。Happytalk イラストの旗の上に、会員登録ボタンがあります。



PCの方は、下記のアドレスから進んでください。

<https://fs.lck-cloud.com/u14987/regist.html>

（お問い合わせ）

immune.happytalk@gmail.com

TEL03-3556-1784 HITV女子会

※ QRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です